

関係団体の意見と対応

【平成23年度連携排砂計画及び平成23年度連携排砂計画に伴う環境調査計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	連携排砂でダムから流出した土砂量や海に流入した土砂量及び拡散状況の把握に今後も努めて欲しい。	<p>出・洪水や排砂・通砂時の正確な土砂量の把握は、現在の測定技術では困難な状況にあるが、土砂動態の把握のため、排砂シミュレーションの精度向上に努めるとともに、平成16年以降、新たに排砂期間前の5月にダム貯水池測量を実施している。</p> <p>この他、排砂時の流砂量観測や、黒部川河口より海へと流出した土砂量及び土砂の質、海での拡散状況を把握するため、排砂実施時のヘリコプターによる空撮、海域での採水調査等を実施しているところである。今後とも土砂動態の把握精度の向上に努めて参りたい。</p>

【平成23年度連携排砂計画及び平成23年度連携排砂計画に伴う環境調査計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	<p>今後の宇奈月ダムの堆砂形状を踏まえ、漁場環境や漁業へ影響がより少ない排砂方法を検討してほしい。</p>	<p>第34回黒部川ダム排砂評価委員会において頂いた評価を基に、平成23年度については排砂後の6月から8月に通砂実施基準流量に満たない出水時において一定の実施基準を定めて細砂通過放流を実施する計画である。</p> <p>今後も、排砂及び通砂方法について検討・改善することにより、限りなく自然に近い形で排砂及び通砂が実施できるよう、努力して参りたい。</p>

【平成23年度連携排砂計画及び平成23年度連携排砂計画に伴う環境調査計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	<p>船体の損傷など、流木による漁業への影響が懸念されるため、排砂実施機関においては今後も流木処理等の対応をお願いしたい。</p>	<p>これまでも、黒部ダム、出し平ダム及び宇奈月ダム湖に出・洪水時に流入してくる流木については、排砂期間前後及び排砂期間中にできるだけ回収している。</p> <p>また、河道内に堆積した流木については、従来から次回の出・洪水時に下流に流出し、被害を及ぼすことが想定されることから、積極的に回収している。</p> <p>今後も、排砂期間中にダム湖内に流入し、浮遊する流木及び河川管理上支障のある河道内の流木の回収に引き続き努めて参りたい。</p>

【平成23年度連携排砂計画及び平成23年度連携排砂計画に伴う環境調査計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	猫又付近の土砂堆積対策について、土砂搬出の具体的方策を検討してほしい。	<p>出し平ダム貯水池上流の猫又地点は、平成7年7月の大出水以降、出水による土砂堆積が顕著であり、同地点に在る黒部川第二発電所及び新黒部川第二発電所では、それぞれの放水口付近において、発電機能維持を図るため、機械掘削を行っている。</p> <p>現在、新黒部川第二発電所では、放水路付け替え工事を実施しており、工事が完成すれば機械掘削は不要となる。</p> <p>一方、黒部川第二発電所の放水口付近においては、土砂堆積が著しく、引き続き放水口付近の掘削が必要である。</p> <p>このため工事等により、濁りの発生が予想される箇所については、仮締め切り施工中に土嚢積みを行い、濁りの発生を極力抑制している。</p> <p>今後とも、堆積土砂処理については、環境への影響を小さくするような方法を検討していきたい。</p>

【平成23年度連携排砂計画及び平成23年度連携排砂計画に伴う環境調査計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	排砂と魚の生息への影響に対する因果関係について、今後も調査地点、方法を含め検討してほしい。	<p>これまで専門家の指導を頂き、また、海面漁業関係団体と相談しながら、魚の生息環境の変化を把握するため、水質、底質、マクロベントス、動・植物プランクトンの調査を行ってきたところである。</p> <p>また、第34回黒部川ダム排砂評価委員会において、生物調査の解析方法等について、委員より「マクロベントスに関するデータについて、専門の人を調べて更に詳しい解析や解釈ができないか検討させていただきたい」との意見も頂いていることから、平成23年度以降もマクロベントスの出現の解析や解釈を含めて、専門家の助言・指導を頂きながら、魚の生息環境の変化の把握に努めて参りたい。</p>

【平成23年度連携排砂計画及び平成23年度連携排砂計画に伴う環境調査計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
<p>内水面漁業関係団体</p>	<p>排砂ダムを有する黒部川においては、魚族生息に与える影響は計り知れないものがあり、特にアユ等の生息環境の影響について危惧しているところである。</p> <p>第34回黒部川ダム排砂評価委員会においては、「出・洪水時、連携排砂および連携通砂実施時において、アユの肥満度について今後検証の必要がある。」との評価がなされており、今後の魚類調査にあたっては、内水面漁協とも協議を行いながら、水生生物調査について科学的な分析を行い、魚族の生息環境へ与える影響の解明に努めるとともに、生息環境改善に努められたい。</p>	<p>実施機関としては、黒部川の河川環境へ与える影響を軽減できるよう、排砂方法の検討に努めるとともに、連携排砂に伴う環境調査計画に基づき、黒部川及び出し平・宇奈月両ダムにおける排砂前後の環境状況を把握すべく定期的かつ排砂期間中の排砂環境影響調査を行っている。</p> <p>今後も、専門家の指導及び内水面漁協からのご意見、ご協力を頂きながら、魚類採捕調査、水生生物調査を実施する予定であり、第34回黒部川ダム排砂評価委員会での評価も踏まえ、魚類の生息環境への影響に対する調査や分析に努めて参りたい。</p>

【平成23年度連携排砂計画及び平成23年度連携排砂計画に伴う環境調査計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
<p>農業関係団体</p>	<p>出し平・宇奈月ダムの連携排砂の必要性と処置方法を、地域住民により深く周知され、理解と協力が得られるよう、常に関係市町と連携を深めながら鋭意努力願いたい。</p> <p>天候の状態や農作業の時期的な影響を考慮し、連携排砂、連携通砂、豪雨時の停止と合口用水路の取水停止が連続し、長期化しないような実施方法を検討願いたい。</p> <p>農業関係団体において、4月から9月が農業用水の最も大切な灌漑期であり、農家の協力と理解が不可欠であることを十分認識願いたい。</p>	<p>連携排砂実施機関では、連携排砂及び通砂について、これまでも文書や来訪者からの意見、質問への対応はもとより、勉強会・説明会等の要望に応じるなど、関係市町のご協力を得ながら、様々な形でご理解とご協力が得られるよう、努めてきたところである。</p> <p>今後とも、連携排砂及び通砂について、地元自治体等とも相談を行いながら、ご理解いただけるよう、努めて参りたい。</p> <p>及び</p> <p>排砂は、環境への影響を小さくするため、土砂変質を防止し、できるだけ自然の土砂流に近い形で、毎年、確実に行っていくことが必要であると考えている。</p> <p>通砂は、排砂後の一定規模以上の出洪水発生時において、上流から流入する土砂を貯水池内に貯めないよう、通過させるものであり、翌年度に行う排砂時の土砂量を減らし、環境に与える影響を極力低減させる観点から、必要なものと考えている。</p> <p>今後とも、取水停止時間の短縮に向けた検討を行って参りたい。</p>